



Annual Report 活動概要レポート
2012年4月～2013年3月



Our vision ビジョン

すべての人々が安全な水と衛生設備を使うことができる世界 — それがWaterAidのビジョンです。

Our mission ミッション

WaterAidのミッションは、世界で最も貧しい地域に安全な水と衛生環境を届けることによって、人々の暮らしを変えていくことです。WaterAidは、活動の効果を最大限に高めるために、パートナーと協力し、意思決定機関への働きかけを行っています。

支援の提供

「Big Dig」プロジェクト／マラウイ	P.4
アラカシ村／マダガスカル	P.6
「Cascade」プロジェクト／ネパール	P.8
ティッピータップ／東ティモール	P.10
変化を起こす	P.12
認識を広める	P.14
WaterAidの活動地域	P.16
財務情報	P.18
主な協力企業・団体	P.20
WaterAid Japan	P.22



（表紙）マダガスカルの給水所で衛生的な水をくむシトラキニエナ（15歳）

写真提供（表紙）：WaterAid／アンナ・カリ

The crisis 危機的現実

安全な水や衛生設備のない人々は、貧困と病気の悪循環から抜け出すことができません。開発途上国には、貴重な時間を費やして不衛生な水をくみに行く女性は何百万人もいます。予防可能な下痢性疾患で命を落とす子どもたちがいます。

7億6,800万人

安全な水を利用できない人が世界全体で7億6,800万人います。

25億人

適切な衛生設備を利用できない人が世界全体で25億人います。

2,000人

不衛生な水しかなく衛生設備も整っていないために、下痢で命を落とす子どもが毎日約2,000人います。

Our approach 活動

WaterAidは、現地パートナーを通して、最も貧しく社会から取り残されたコミュニティと協力関係を築き、そこに暮らす人々のニーズにマッチした、実用的で持続可能な水・衛生プロジェクトを立ち上げています。

また、このような命に欠かせない公共サービスを人々がもっと受けられるように、政府などの意思決定機関に対しても働きかけを行っています。こうしたWaterAidの活動に、個人、団体、企業を問わず、実に多くの方々が力を貸してくださっています。WaterAidのあらゆる活動は、皆さまの温かいご支援とご協力に支えられています。

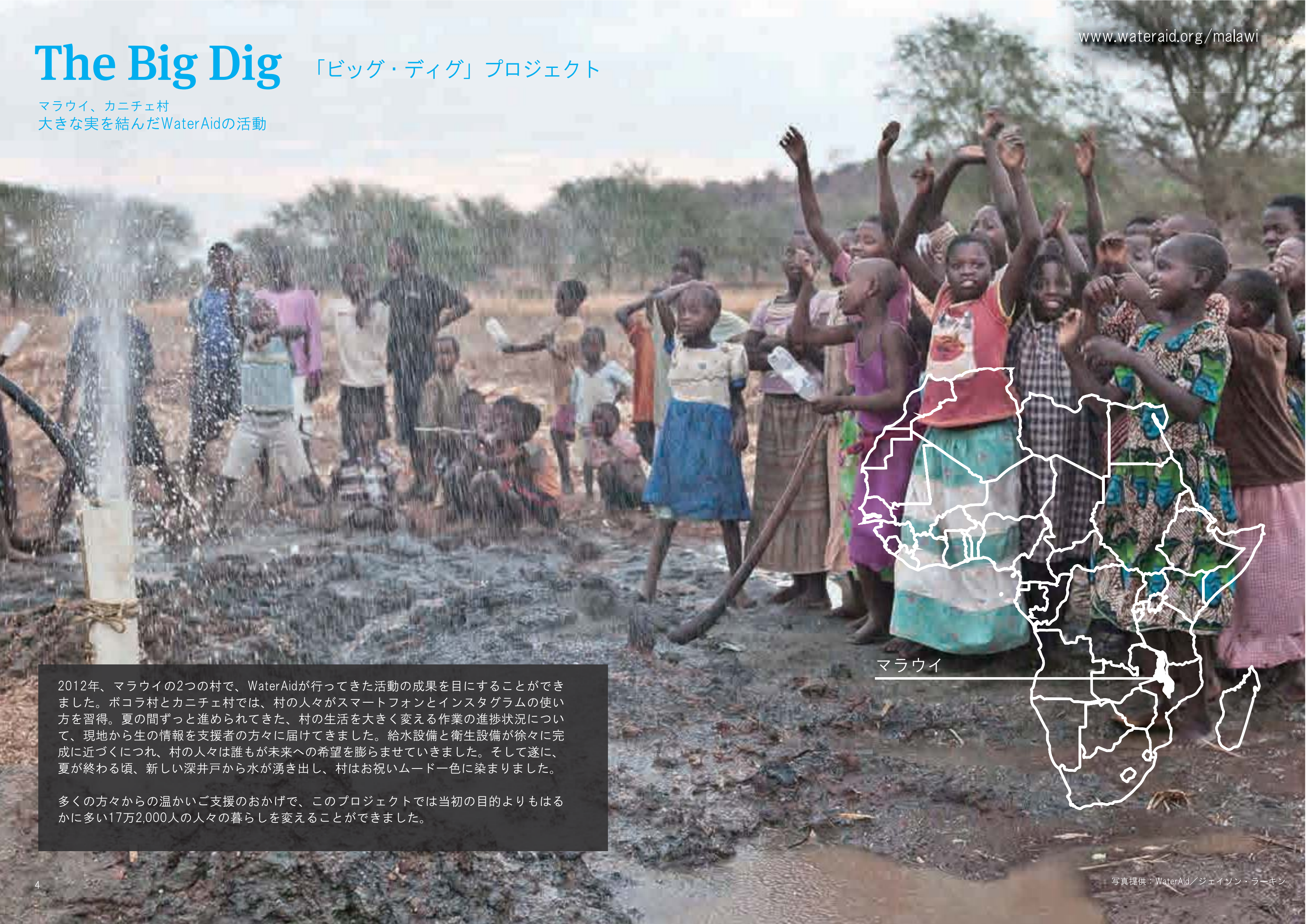
Our history 歴史

1981年	イギリスの水道局によって設立される
1991年	英国チャールズ皇太子が会長に就任
1995年	ストックホルムウォータープライズ受賞
2003年	イギリスにおいてチャリティーオブザイヤー受賞
2004年	アメリカ、オーストラリアにWaterAidを設立
2006年	「イギリスの最も称賛する慈善団体」に選ばれる
2009年	スウェーデンにWaterAidを設立
2013年	ウォーターエイドジャパン設立

写真提供：WaterAid／アンナ・カリ

The Big Dig 「ビッグ・ディグ」プロジェクト

マラウイ、カニチェ村
大きな実を結んだWaterAidの活動



マラウイ

2012年、マラウイの2つの村で、WaterAidが行ってきた活動の成果を目にすることができました。ボコラ村とカニチェ村では、村の人々がスマートフォンとインスタグラムの使い方を習得。夏の間ずっと進められてきた、村の生活を大きく変える作業の進捗状況について、現地から生の情報を支援者の方々に届けてきました。給水設備と衛生設備が徐々に完成に近づくにつれ、村の人々は誰もが未来への希望を膨らませていきました。そして遂に、夏が終わる頃、新しい深井戸から水が湧き出し、村はお祝いムード一色に染まりました。

多くの方々からの温かいご支援のおかげで、このプロジェクトでは当初の目的よりもはるかに多い17万2,000人の人々の暮らしを変えることができました。

Alakamisy アラカミシ村

マダガスカル、ソアビナ

村の人々との出会いを通して、はじめて水と衛生が人々の暮らしを変えるためにどれほど大切なものかがわかります

www.wateraid.org/alakamisy



マダガスカル

アラカミシ村は、マダガスカルの中央高地にある辺境の農村です。かつては、この村の主な水源といえば、硫黄で汚染された湧水しかありませんでした。WaterAidはこの村で、安全な水と衛生設備を利用できるようにし、衛生習慣の改善を促進しました。その結果、病気が減って、村の人々が学校に通えるようになっただけでなく、農業の生産性も高めることができました。しかし、安全な水を利用できるようになったことは、アラカミシ村で起きた変化のほんの一端に過ぎません。

WaterAidでは、アラカミシ村の暮らしをバーチャル体験できるマルチメディアのスライドショーを制作し、村の生活が水と衛生環境の改善によってどれほど大きく変わったかを、2013年の「世界水の日」で公開しました。その中で、村の人々のインタビューもビデオや音声で紹介。ノエリンヌという女性は畑で収穫した作物を売って生計を立てられるようになり、セトラニオナという少女は不衛生な水のために病気になることがなくなって学校に通えるようになりました。こうした変化の中で、村では「お米基金」も設立。村の人々が少額の短期ローンを利用したり、低い金利で資金を借りて村の運営や投資にあてるなど、村全体がメリットを受けられるようになりました。

Project Cascade 「カスケード」プロジェクト

www.wateraid.org/nepal

ネパール、シンドウリ郡
社会から取り残された人々に支援を届けるために、
WaterAidは地理的・社会的な壁を取り除くべく現
地コミュニティと協力しました。

ネパール

ネパール、シンドウリ郡の辺境にあるトスラムクホラ村には、安全な水も衛生設備もありませんでした。山岳地帯にあるこの村では、衛生的でない水源に水をくみに行くことすら極めて困難な状況でした。険しい道を通って行かなくてはならないため、特に子どもや高齢者、障害のある人たちは、しょっちゅう転んだりケガをしたりしていました。また、社会的階級を理由に、他の人たちが使っている水源を利用させてもらえず、もっと遠くまで水をくみに行かなくてはならない人もいました。子どもたちは家の近所で野外排せつをしていたため、家のまわりは非常に不衛生な状態になっていました。

WaterAidはパートナーと協力して「Cascade（カスケード）」プロジェクトを実施。この地域に自然流下方式の給水設備を設置して、トスラムクホラ村の住民962人全員に水を供給できるようにし、80基のトイレも新設しました。今では村の人々全員が安全な水と衛生設備を利用できるようになり、生活が大きく変わりました。このプロジェクトでは、村全体の人々に関わってもらうことで、それまで存在していた社会的な壁を取り除くことができました。この地域では46人の人々がWaterAidの訓練を受け、新しく設置された設備の維持や衛生習慣の促進を行って、このプロジェクトを長期にわたって持続できるようにしています。



東ティモール

Tippy Tap

東ティモール マヌファヒ県 マウレム村

WaterAid は、現地の事情に最も適した、手ごろで持続可能な解決策を提供しています。

2 年前、東ティモールのマヌファヒ県にあるマウレム村は、この国によくある他の農村と同じような状況でした。村の人々が水を利用できるのは不衛生な水源 1 か所だけ。野外排せつが普通で、どの家にも家族が病気になるのをしっかり防げるようなトイレはなく、手を洗う習慣也没有ませんでした。

WaterAid は村の人々と協力し、安全な水を供給できる自然流下方式の給水設備を設置。トイレも利用できるようにし、家でティッピータップを使って手洗いをするとといった衛生教育も行いました。ティッピータップは竹やポリタンク、古い瓶など現地で手に入る材料を使って、村の人が自分たちで作れる簡単な手洗い装置です。容器を傾けると少量の水が出る仕組みで、水道管を引かなくても水が使えます。

村では全世帯にティッピータップが設置されました。うち半数の家では、トイレに 1 つと台所に 1 つ、あわせて 2 つのティッピータップを設置し、トイレを使った後や、料理、食事の前など、肝心なときに石けんで手を洗っています。

「ティッピータップを使うのって、おもしろいのよ。私の弟なんて、ティッピータップで遊ぶのが大好きで、使いたくてしかたないの。いつも使っているわ」と、12 歳のエリサが話してくれました。

現地のリーダー、エガス・モニス・ティルマンは、野外排せつによって病原菌がどのように広まるかを村の人々が理解すれば、それがモチベーションとなって、現地で手に入る材料でトイレやティッピータップを設置する動きにつながると言っています。

Making change happen

変化を起こす

2030年までに、すべての人が、すべての地域で、安全な水と基本的な衛生設備を利用できるようになる。それは決して不可能なことではないと、WaterAidは確信しています。WaterAidは世界中の政策決定機関に働きかけ、協力しあいながら、水・衛生は持続的な発展の基礎であるという認識を確立すべく尽力しています。

WaterAidは、国際パートナーシップである「万人のための衛生と水（Sanitation and Water for All）」の設立メンバーであり、このハイレベル会合が、昨年ワシントンDCで開催されました。そこで、37か国が2億2,400万人に安全な水を、3億600万人以上に衛生設備を届けるために出資することを約束しました。

ミレニアム開発目標の達成期限を2015年に控え、それに代わる新たなグローバル開発目標について世界のリーダーたちが議論を交わしているなか、近年こうした最もハイレベルな場で水と衛生の問題が注目を集めているのは非常に心強いことです。WaterAidは今後も引き続き、2030年までにすべての人が、すべての地域で安全な水と基本的な衛生設備を利用できるようにすることを最優先課題とした、グローバルな貧困削減のための新フレームワークについて、議論を進めていきます。

WaterAidは昨年、他にも世界各地で様々な活動を行いました。その一部をご紹介します。



オーストラリア

衛生設備の重要性を訴えるため、WaterAidはパートナーのキリスト教団体ミカ・チャレンジと共に、巨大トイレを携えてオーストラリア各地を巡りました。40か所以上でイベントを開催し、この巨大トイレに腰かけた人の数は2万5,000人を超えました。



インド

インドには、地下水に人間の健康を脅かす高濃度のフッ化物がもともと含まれている地域があります。WaterAidは現地パートナーと共に、このフッ化物を低減するための活動を実施。今では地区行政機関がこの活動をさらに拡大しています。



マダガスカル

WaterAidは、障害のある人たちの水・衛生に対する権利を求め、活動を支援し、新設される給水・衛生設備のアクセシビリティ基準を現地の意思決定機関が制定するという成果を上げることができました。



ネパール

学校の衛生設備に資金を投入することの妥当性と効率に関するWaterAidの調査報告発表を受けて、ネパール教育省は学校の衛生設備設置計画に充てる予算を拡大しました。



ニジェール

WaterAidは、遊牧生活を営む11の集団の水・衛生ニーズに関する調査に参加。一時的な居住場所で使用するトイレとして、ノマドリンという画期的な方策を開発しました。



ルワンダ

WaterAidは現地政府機関と協力してビュジュスラ地区に水・衛生コーディネーターを配置しました。その結果、この地区の開発計画で水と衛生の問題が優先的に扱われるようになりました。



スウェーデン

スウェーデン政府は、WaterAidスウェーデンが継続的に行っているアドボカシー活動を受けて、特にサハラ以南のアフリカ諸国に重点を置き、水と衛生に関する出資額を3,800万ポンド引き上げると発表しました。



イギリス

イギリス政府は、2015年までに水と衛生設備を届ける目標人数を6,000万人に倍増させることを約束。この決定にはWaterAidの支援者の方々のアドボカシー活動が大きな役割を果たしました。



米国

WaterAidは「ポール・サイモン上院議員『世界のための水』法（Water for the World Act）」の法案可決を議会に求める動きに参加。この法律は貧困層の人々への支援を優先的に行い、水・衛生プログラムに対する米国の出資を増やすことを定めたものです。

写真提供：1.WaterAid 2.WaterAid／ディーター・テレマンス 3.WaterAid／アーネスト・ランドリアリマララ 4.WaterAid 5. WaterAid

6.WaterAid／ズーテ・ライトフット 7.WaterAid／ズーテ・ライトフット 8.WaterAid 9.WaterAid

Spreading awareness

www.wateraid.org/news

認識を広める

個々の人々やコミュニティ、企業パートナー、そしてイギリスの水道会社各社と共に、WaterAidは水と衛生の危機に対する認識を広める活動を続けています。

メディアを通じてキャンペーンのメッセージを多くの人々に知っていただき、援助資金提供者を新たに募ったり、支援者の方々の感動的な活動を紹介するといったことも行っています。

昨年は、5,000本以上のWaterAidに関するストーリーが、4億人を超える人々に届けられました。BBCのようなグローバルな放送局から、新聞の全国紙や影響力のあるウェブサイトまで、WaterAidのメッセージはいたるところで広く伝えられました。

ここでは昨年メディアで伝えられたものの一部をご紹介します。

なぜ？ナイジェリア女性の半数が今でも十分な衛生設備を利用できない理由

BBCのニュース映像で、ラゴスの貧しい地域に暮らす女性たちの苦しい現実が浮き彫りにされました。



基本的な水・衛生は食物の安全に不可欠

WaterAidイギリスのCEOのバーバラ・フロストによる論説記事が掲載されました。



ナイジェリアが抱える手ごわい問題—衛生設備 貧しいコミュニティが直面している大きな課題をアルジャジーラがレポート。



ビル&メリンダ・ゲイツ財団からWaterAidに多額の助成金
西アフリカにおけるWaterAidの活動に対して630万ドルの助成金が贈られたことが報じられました。



目を向けよう、世界の衛生事情 (Raising a stink about global sanitation)

「女性の3人に1人が安全なトイレを利用できていない」というWaterAidのレポートが、「世界トイレの日」に92本の記事で取り上げられました。この記事を読んだと思われる読者数は1,020万人に上ります。



ビヨンセ、H&Mの水着モデルに
H&Mが水着コレクションのモデルにビヨンセを起用。売上の一部がWaterAidに寄付されました。



MailOnline

HELLO!
hellomagazine.com

saturday
kitchen

S Club 7の元メンバーで歌手のレイチェル・スティーヴンスがWaterAidの大使に

レイチェル・スティーヴンスがエチオピアを訪問し、飲料水ブランドのベル、大手スーパーマーケットのセインズベリーと支援活動を行ったことが、メール・オンライン、ハロー、BBC1のサタデーキッチンなどで取り上げられ、1,400万人に視聴されました。

約10億人が安全な水のない生活
スウェーデン最大の新聞のひとつに水と衛生の危機に関する記事が掲載され、WaterAidのレポート「すべての人が、すべての地域で (Everyone, everywhere)」が取り上げられました。



水不足が「世界の経済成長の妨げに」

HSBCウォーター・パートナーシップの設立にあたって委託作成された調査レポートが、インディペンデント紙、ガーディアン紙、ロイター通信、ハフィントン・ポスト紙など世界中のメディアで取り上げられました。

THE
INDEPENDENT

リンゴ・スターがチェルシー・フラワーショーに出席

元ビートルズのリンゴ・スターが、チェルシー・フラワーショーで金賞を受賞したWaterAidのハーバート・スミス・ガーデンのオープニングに出席。おかげでWaterAidは、BBCテレビをはじめデイリー・エクスプレス紙、インディペンデント紙、デイリー・ミラー紙、カントリー・ライフ誌などのメディアで取り上げられました。

DAILY EXPRESS

2012年4月～2013年3月



170万人

水を利用可能になりました



220万人

衛生設備を利用可能になりました



200万人

衛生環境が改善しました

2012年4月～2013年3月に水と衛生設備を利用できるようになった人数

中央アメリカ

水 / 衛生

1. ニカラグア
1,900/1,100

西アフリカ

水 / 衛生

2. ブルキナファソ
71,000/115,000
3. ガーナ
67,000/26,000
4. マリ
43,000/39,000
5. ナイジェリア
119,000/209,000
6. リベリア
9,000/8,000
7. ニジェール
6,000/6,000
8. シエラレオネ
3,000/32,000

南アフリカ

水 / 衛生

9. マダガスカル
41,000/64,000
10. マラウイ
27,000/101,000
11. モザンビーク
78,000/71,000
12. ザンビア
54,000/42,000
13. アンゴラ*
14. レソト *
15. スワジランド
1,000/1,000

東アフリカ

水 / 衛生

16. エチオピア
175,000/173,000
17. タンザニア
64,000/64,000
18. ウガンダ
65,000/102,000
19. ケニア*
20. ルワンダ
10,000/6,000

アジア

水 / 衛生

21. インド
455,000/297,000
22. ネパール
67,000/75,000
23. バングラデシュ
284,000/670,000
24. パキスタン
75,000/108,000
25. カンボジア*

太平洋地域

水 / 衛生

26. 東ティモール
2,000/2,000
27. パプアニューギニア
3,000/7,000

メンバー国

1. カナダ
2. アメリカ
3. イギリス
4. スウェーデン
5. 日本
6. オーストラリア

*プログラムが試験的段階のためデータなし。

www.wateraid.org/where-we-work

1981年以降：
1,920万人が安全な水を利用できるようになりました。

2004年以降：
1,510万人が衛生設備を利用できるようになりました。

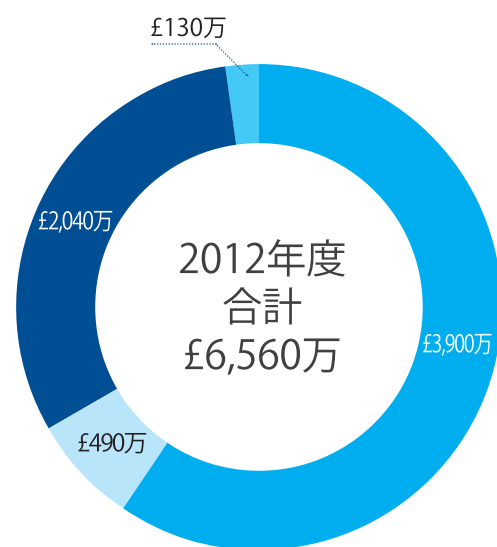
WaterAid's financial information

財務情報

www.wateraid.org/annualreportUK

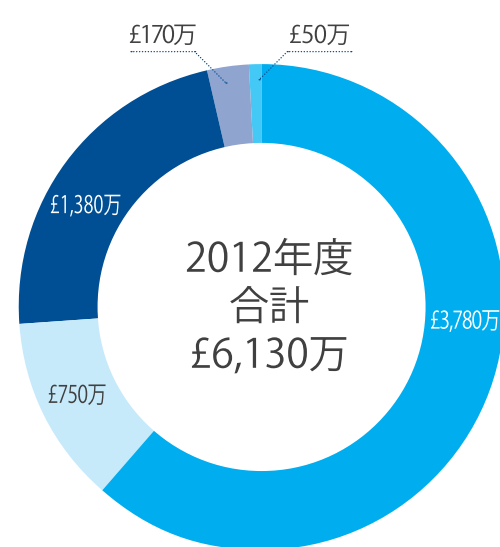
ここに示した金額は、WaterAidイギリスの活動ならびにWaterAidイギリスが23か国で実施し直接管理している活動に関するものです。

収入



- 寄付金
- 助成金 (一般)
- 助成金 (特定目的)
- その他の収入

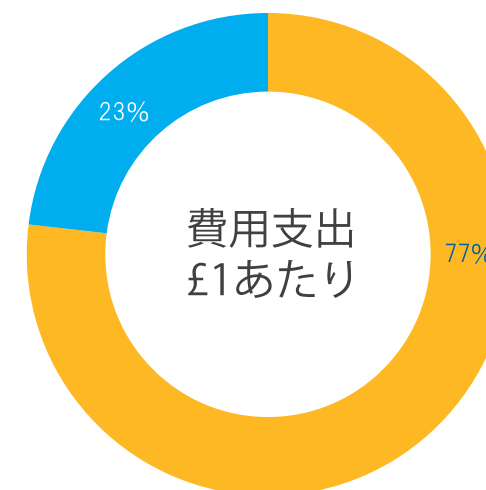
支出



- 支援の提供
- 意思決定機関への働きかけ
- ファンドレイジング費用
- 他のメンバー国WaterAidの支援
- ガバナンス



ファンドレイジング費用の支出1ポンドに対し、収入金額は4.74ポンド



支出した費用1ポンドのうち、77%が支援の提供、意思決定機関への働きかけ、および他のメンバー国WaterAidに対する支援に使われ、23%がファンドレイジングとガバナンスに使われました。

36万8,000の企業・団体、個人の方々の ご支援がなければ、人々の暮らしを変える ことはできませんでした

www.wateraid.org/getinvolved

2012年度、何百万人という人々に支援を届けることができたのも、ここにその一部を掲載させていただいた数多くの企業・団体、個人の皆様のおかげです。

@ ワンアライアンス	コストイン社	ヘンネス&モーリッツ社	モルガン・シンドル社	セムコーブ・ボーンマス・ウォーター社	英国公認水・環境管理協会（CIWEM）	WaterAid ラトランド・ファンドレイジンググループ
アダム・スミス・インターナショナル社	デカンター誌	ハーバートスミスフリーヒルズ外国法事務弁護士事務所	モット・マクドナルド社	セバーン・トレント・ウォーター社	協同組合銀行	WaterAid ローカルグループ・ネットワークのボランティア
ADSM 社	ディアジオ社		MWH 社	シマヴィ	フォスター・ウッド財団	WaterAid スピーカー・ネットワークのボランティア
アフィニティ・ウォーター社	ドバイケア	HSBC ホールディングス社	ニール・アームストロング・アンド・ザ・ファーストフロー・グループ	スカンスカ社	グリミット・トラスト	
アレグラ財団（イギリス・コーヒーウィーク）	オランダWASH アライアンス	インスティテュート・オブ・ウォーター	ニュー・イングリッシュ・スクール	グレートブリテン・アイルランド国際ソロプチミスト	ロータス財団	ウォーターストーンブックセラーズ社
アンディ・ヒントン氏	ウェールズウォーター社	マン島海外援助委員会	NMC ノメンカ社	サウスイースト・ウォーター社	ランワース・トラスト1985	ウェーブニーポンプス社
アングリアン・ウォーター・サービス社	エコベール（イギリス）社	J.P. モルガン社	ノメンカ社	サウススタフォードシャー・ウォーター社	シャンレイ・チャリタブル・トラスト	ウェセックス・ウォーター社
グレートブリテン・アイルランド・インナーホイールクラブ	イギリス環境庁	ジャージー海外援助委員会	北アイルランド・ウォーター社	ウオーター社	ストーンファミリー財団	
アヴェダ社	エッシュ・コンストラクション社	JN ベントレー社	ノーサンブリアン・ウォーター社		シルビア・アダムス・チャリタブル・トラスト	ホワイトブレッド・ホテル&レストラン
バルフォー・ビーティー・ユーティリティ・ソリューションズ社	エバーシェッツ社	ケルダ・グループ	イギリス水道事業規制局	サザン・ウォーター社	ウオータールー財団	ワイルド・アンド・ウルフ社
バーヘイル・コンストラクション社	エセックス・アンド・サフォーク・ウォーター社	ケンツ・エンジニアリング・アンド・コンストラクション社	ペーパーチェイス・プロダクツ社		トラント・コンストラクション社	ウッドマンスターン出版社
ベル・ウォーター社	欧州委員会	ナリッジ・ブローカーズ社	ベニー・サンダース氏	スタンリー・トーマス・ジョンソン財団	UKaid（イギリス国際開発省）	世界保健機関（WHO）
イギリス国営くじ基金	欧州投資銀行	ラ・フォンダシオン・アンサンプル	ポーツマス・ウォーター社		ユニセフ	ヨークシャー・ウォーター社
ビル・トーマス氏	ファクト・インターナショナル社	レイン・オルーク社	ダルエスサラーム・ロータリークラブ	ガーンジー州海外援助委員会	ユニリーバ社	
ブラック・アンド・ビーチ社	フランク・コットレル・アンド・コールピット・ヒース/WaterAid グループ	ランドマーク・インフォメーション・グループ	リンカーン・ロータリークラブ	スチュワーツ・ロー法律事務所	ユナイテッド・ユーティリティーズ社	
ブリistol・ウォーター社	富士フィルム・ヨーロッパ社	イギリス諸島・アイルランド国際ライオンズクラブ	リンカーン・ロータリークラブ	サットン・イーストサリー・ウォーター社	米国国際開発庁	
ブリティッシュ・ウォーター協会	ガリフォード・トライ社/イムテックUK 社	マーティン・カリー・インベストメント・マネジメント社	グレートブリテン・アイルランド国際ロータリー		都市貧困層のための水と衛生	
ケンブリッジ・ウォーター社	GBM	マトキ社	ロトルク社	スウェーデン国際開発協力庁	水供給衛生協調会議	
キャップジェミニ社	ゲオルグ&エミリー・フォン・オベル財団	メイ・ガーニー社	ラバーメイド・コマーシャル・プロダクツ社	スイス開発協力庁		
CH2M ヒル社		マクアンドリュウ・ユーティリティーズ社	グラスゴー大学：サルサ4ウォーターセーブ・ザ・チルドレン・フィンランド	テムシス社		
クリス・ロコス氏	グラストンベリー・フェスティバル社	MDNX 社	スコティッシュ・ウォーター社	テムズ・ウォーター・ユーティリティーズ社		
クランシー・ドクウラ社	ゴーランド&ドーソン社	メディコール財団	スコティッシュ・ウォーター・ソリューションズ社	アルケミー財団		
クラレット・シビル・エンジニアリング社	グロントメイ社	ミーレ社	セドン・コンストラクション社	ザ・ボディショップ財団		
コミック・リリーフ	ハーベイナッシュ社	マイルドレン・コンストラクション社				



WaterAid Japan

WaterAidのビジョンを実現するために、より多くの日本の皆さまにご協力いただきたいと考え、2013年2月、特定非営利活動法人ウォーターエイドジャパンを設立しました。

役員

理事長	滝沢 智	(東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻教授)
理事	赤羽 真紀子	(CSRアジア日本代表)
	池上 清子	(日本大学大学院総合社会情報研究科教授、前国際連合人口基金東京事務所所長)
	橋本 淳司	(ジャーナリスト/アクアスフィア代表)
	高橋 郁	(特定非営利活動法人ウォーターエイドジャパン事務局長)
監事	和仁 亮裕	(外国法共同事業法律事務所リンクレータース 弁護士)

会計報告概要(2013.2.15～2013.3.31)

活動計算書

収入

受取寄付金	181,206
-------	---------

収入合計	181,206
------	---------

支出

事業	
情報発信	39,043
講演会・イベント	35,823
募金活動	78,870
管理	91,999

支出合計	245,735
------	---------

貸借対照表

資産の部

現金預金	77,863
保証金	35,295

資産合計	113,158
------	---------

負債の部

未払金	172,582
預り金	5,105

負債合計	177,687
------	---------

正味財産の部

当期正味財産増減額	△64,529
-----------	---------

正味財産合計	△64,529
--------	---------

負債及び正味財産合計	113,158
------------	---------

2012年度のハイライト



行政・水道局と関係構築～横浜の近代水道創設125周年

横浜市水道局が2012年10月17日に近代水道創設125年の記念日を迎えたことを機に行われた記念セレモニーに、前英国水道協会会長であり、WaterAid UKの理事でもあるクリストファー・ローリンとともに出席しました。



イベント等を通じた関心喚起

横浜国際フェスタ（2012年10月）、CSRアジア東京フォーラム（2013年3月）などのイベントにブースを出展し、途上国の水・衛生問題についての関心喚起に取り組みました。



企業からのご支援①～株式会社ファンケル様

2010年より、毎年8月に行われるシニアゴルフトーナメント「ファンケル クラシック」会場における、ギャラリーの皆さまからの募金やプロの愛用品オークションの売上金等の一部を通じて、WaterAidをご支援いただいています。2012年度も多大なご支援をいただきました。



企業からのご支援②～BSIグループジャパン株式会社様

BSIグループとしてグローバルでWaterAidをご支援いただいています。BSIグループジャパン様は、2013年3月、ウォーターエイドジャパンを通してWaterAidへの支援活動を開始。国連世界水の日である3月22日には、事務局長の高橋が、同社の社員の皆様向けに活動紹介をさせていただきました。

生きていくために欠かせない
安全な水とトイレ。

人々の暮らしを大きく変える
ことができるのは、皆様からの
ご支援です。

約2500円のご支援で、ひとり
の人が安全な水と衛生設備を
利用し、衛生環境を改善する
ことができます。

 **WaterAid**

特定非営利活動法人ウォーターエイドジャパン
〒130-0004 東京都墨田区本所3-15-5
ソーシャルインキュベーションオフィスSUMIDA206
Tel: 03-3829-0678 Fax: 03-5809-7800

info-japan@wateraid.org
www.facebook.com/WaterAidJapan
www.twitter.com/WaterAidJapan
www.youtube.com/user/wateraidjapan

www.wateraid.org